

令和五年（二〇二三）三月二十五日発行  
『大倉山論集』第六十九輯抜刷  
（公益財団法人 大倉精神文化研究所）

史料翻刻 木下韓村日記  
（十）  
—  
③

木下韓村日記研究会

史料翻刻 木下韓村日記 (十) — ③

木下韓村日記研究会

〔凡例〕

本稿では、なるべく原文通りに翻刻することを原則とした。

- 一 漢字は、原文通りとする。したがって、正字体（旧字）と俗字体（新字）とが混在している場合がある。（例 詩會・詩会、訛摩・託摩など）
- 一 異体字も原文のままとした。（例 昏（紙）、棊（棋）、畧（略）、舩（船）、冫（部）、君羊（群）、出（出）など）。ただし、パソコンで表現できない異体字は、通行の字体を使用した。
- 一 助詞の「者、江、而、ニ」は、そのままとし、他の変体仮名は、通行の平仮名を使用する。「江」、「者」、はポイントを小さく、「而」「ニ」はそのままとした。
- 一 合字の「ㄨ（より）」「メ（しめ）」は、そのままとし、それ以外は、仮名を使用した。
- 一 不明箇所は、その文字数分□と表記した。また、その文字が推測できる場合は、傍注を加えた。なお、虫損などで文字は判読できないが、地名や人名などで推測がつく場合は文字を当て嵌めたり、傍注を付したりした。翻刻不可能な箇所でも文字数が推測できる場合は「□」、文字数が不明の場合は「〔以下数字破損〕」と表記した。
- 一 欠字・平出も原文通りとした。
- 一 読みやすさを考慮して、適宜読点および並列点を付した。
- 一 原文は、日付のあとにすぐに本文が始まるが、翻刻では日付のあとは改行して本文を記した。これは、読みやすさのためと初期の巻の形態を踏襲しているためである。
- 一 本文の補足情報を「」で傍注として付した。なお人名には役職をできるだけ付したが、姓のみが記されている場合は、紙幅の関係上、名を付すのみに留めた。

嘉永七年甲寅正月朔旦

在家、夜、為奥山静一閱譯書

大畧相仕舞

二日

在家

七日  
詣〔奥山〕静叔家一閱譯書、〔釋村翁〕徳太郎長崎書至  
○〔若殿近習〕田代雄次郎至

八日

坂梨潤左衛門、明日相州詰として出立いたし候ニ付暇乞

三日

御禮昼比濟、内坪井半分・二丸・高麗門・山崎・高田原

迄回勤

九日

在宿、〔釋村翁〕丑三郎出府

四日

雨天、講堂御入、講説初〔加々山〕、召出等如例

十日

〔釋村翁〕丑三郎帰、〔釋村子〕信十郎召連龍田山墓參

五日

雨天、草葉丁邊回勤

十一日

在郷分段々出府仕

六日

内坪井半分・京町・寺原・千反畑・健部・御寺參拜等、

十二日

夜分、漆嶋甚次郎・善正寺〔坂梨手水惣庄屋〕・渡邊子八郎〔高森手水惣庄屋〕・犬塚伊之助〔高甲手水惣庄屋〕・  
光永四兵衛〔河原手水惣庄屋〕・福島龜之允〔布田手水惣庄屋〕・矢野甚兵衛・園田五郎次、  
集飲〔岩陰〕 ○塩谷甲蔵書至

十七日

溝口殿出立〔藏人〕 ○詩文合會宅請持〔釋村〕、手前二相勤候  
講釋、輪点、孟子ヲ説

十八日

十三日

説經籛瀬〔駄兵衛〕、音楽後頂戴例之通、相濟候而籛瀬〔惣左衛門〕・三苦〔釋村〕、  
手前二立寄

十九日

講堂詩会如例〔熊本県立図書館蔵 秩々亭記〕 ○秩々亭諸作、小細工を呼出、断子  
合セいたし候事

十四日

在宿〔藏人〕、溝口殿〔若殿近習〕・田代雄次郎・池松大八〔若殿〔留形〕附〕・堀内彈右衛門・  
入江傳右衛門、各暇乞、夜武田文平至

廿日

昨日之仕残、小細工呼出し、断揃セ候

十五日

廿一日

在宿〔同蘇郡西原村布田で開塾〕、竹崎律次郎、長崎ヨリ帰り候由〔釋村弟〕、徳太郎〔久也〕ハ下津隠居  
一同、肥前之様立廻り候由

十六日

若殿様御発駕、辻御目見如例、回り方同様〔細川家願〕

廿二日

餘寒強

廿三日

講釋、當点、論語ヲ説

廿四日

並

廿五日

餘寒強、雪降ル ○此夕方薩摩大軍物頭分之者、御當地  
ヲ通行、東行いたし、南海ニ異国船數十艘渡来之由申聞  
候由

廿六日

近日餘寒打續

廿七日

〔奉行副迄〕  
高本敬太郎来ル、朔日出立之由見へ候ニ付、為暇乞罷越

廿八日

並

廿九日

此月小盡 ○昨日之御便〔太郎右衛門〕二大城・町野〔玄應〕・遠山〔三右衛門〕・橋谷〔市之助〕江状  
仕出

二月〔嘉永七年〕

朔日

〔禰村忠〕德太郎長崎ヨリ還、出府、止宿、長崎夷船壹艘ハ七日、  
跡三艘ハ八日ニ出帆いたし候由、船中之模様其外、公儀  
御役方御応接之主意、取沙汰とも承之、〔德太郎〕德ハ下津隱居  
ニ付キ、肥前之様罷越、製鉋〔マ〕之様子とも承候

二日

〔太郎右衛門〕大城方先孺人三回忌、為拜牌罷越候

三日

朝下津〔久也〕隱居江出、德太郎〔釋村弟〕礼相述候 ○小太郎〔釋村弟〕相談事有之  
出府、夜分德太郎一座小酌

四日

小太郎〔釋村弟〕帰ル

五日

德太郎〔釋村弟〕帰ル、詩会〔釋村弟〕加々山宅請持

六日

講堂文会 ○小細工呼出、秩々亭〔熊本県立図書館蔵、秩々亭記〕詩文軸二卷七、上  
書等出来候事

七日

昨六日夕廻江手永志々水村仙藏、増奉公ニ召抱申候事  
○今日〔釋村先父高橋弥四郎宅〕數ノ内鋤之身先家内案内、大塚七右衛門立寄、雨  
天ニて市賑無之

八日

夕番二候處、朝ノ内申談事有之早出、一旦引取候而夕詰

九日

十日

加々山〔釋村弟〕詩会請持

十一日

秩々亭〔熊本県立図書館蔵、秩々亭記〕文取揃之儀、昨年二月蒙  
御内命、追々延引仕候段ハ大榭〔近習次組協〕彈藏方迄申出置、當春相  
揃候、左之通

覺

詩

溝口藏人殿・藤掛傳次・白木大助・元田傳之丞・  
内藤宗珉・富田宗栗・桑満伯順・田中司馬・  
水津熊太郎・坂梨潤左衛門・野尻正藏・富田熊  
男・狩野俊助・山田守敬・月田鏡太郎・  
〔家老〕 〔穿鑿頭〕 〔使番〕 〔醫業吟味副役〕 〔再春館副役〕 〔元再春館副役〕 〔再春館副役〕 〔春行所銀取〕 〔土席浪人三男文之進は釋村問生〕 〔湯池の医師〕 〔家寄、釋村問生〕

城允〔備洲 医師〕・福島龜之丞〔備洲 醫師〕・德永礼八〔唐物技術改良横目〕・衛藤七弥太〔静軒、禪村從弟〕・

城野弥三次〔室松居士詩稿〕・橋本次郎右衛門〔時習館訓導〕・内田源七〔室松居士詩稿〕・

中山逸堂〔室松居士詩稿〕・加々山権内〔時習館訓導〕・片山喜三郎〔時習館訓導〕・

益田源七〔時習館訓導〕・道家角左衛門〔時習館訓導〕・木下真太郎〔時習館訓導〕

文

阿蘇大官司〔推治〕・江村萬春〔醫師〕・水津熊太郎〔奉行所取〕・生駒新太郎〔業思〕・

寺尾左助〔巴郡〕・山田守敬〔備洲 醫師〕・城允〔備洲 醫師〕・平川俊太〔機密問話本位〕・枋原助之〔東泉、禪村門生〕・

進〔静軒、禪村從弟〕・城野弥三次〔禪村門生〕・草野平蔵〔寛谷、高田手水惣庄屋後助弟〕・岡松辰吾〔高田手水惣庄屋後助弟、禪村門生〕・

岡松魯助〔禪村門生〕・橋本拙蔵〔禪村弟〕・木下小太郎〔禪村門生〕・井口呈助〔時習館訓導〕・木下真太郎〔時習館訓導〕

原佃〔禪村門生〕・

右、名録之通軸二卷、箱入、大槻方江添紙面相認、今

朝門岡忠蔵宅江持参仕出方相頼候事〔欲物所取方〕

十二日

昨日今又々餘寒強

十三日

夕番 ○町野江〔安藤〕状仕出入、玄同江〔安藤子〕頼ム、他山石代一分忒

朱封込遣又也

十四日

二丸御方々様四ツ時之御供揃ニテ、講堂ニ被為入、諸生

会讀御覽、被遊候、助教書經会御入之上相始、

太田次郎太郎〔嘉永二年時点で会読連〕・田尻彦太郎〔嘉永二年時点で会読連〕・二夕切ニ多方ヲ説過、

六ツ過ニ講習相濟、直ニ御立

上野武源太案内ニ付、同役中罷越候〔嘉永二年時点で会読連〕

十五日

休日在宿

十六日

夕番

十七日

加々山宅文會〔權内〕



十八日

並

十九日

講堂詩会

廿日

夕番

廿一日

並

廿二日

並、

(奉行所根敷)水津熊太郎御用地免二被直下、

當夕罷越

廿三日

並

廿四日

並

廿五日

郊外詩文会、(白金堀目付免)是法村永田権兵衛舊宅

廿六日

夕番

廿七日

作与

(息軒)安井仲平・

(谷陰)塩谷甲蔵書、

其外詰込大筒手返書数通、

(彦次郎)上村江頼遣ス

廿八日

(時曾船調導)井口呈助宅集會、

此節夕酒肴之法令復旧

廿九日

夕番

○水津宅

(熊本郡)江下

(元大奉行の久馬、隠居後休也)津休也

被見候二付、

為取持

参候、〔番方組懸〕荻角兵衛・〔番方組懸〕山形典次郎・〔津内〕友成隠居等也、〔医師〕安成宗閑も偶来ル

三日

正官寺初、中ノ瀬・高野瀬・隈府縁家打廻り引取

晦日

四日

並  
在旧里、郡尹試業前、小太郎・〔高山〕謙太・門生之内依頼業を視ル、〔龜之元〕福島・〔礼心〕徳永来話

三月  
〔嘉永七年〕

五日

朔日  
〔釋村子〕信十郎召連、〔天津講伏段〕大津之様罷越、〔格次釋村尚生〕南方江立寄り、道筋之花を見、〔元大津手永惣庄屋〕薄暮大矢野家ニ至ル、止宿、大矢野生書認候も

〔龜之元〕福島・〔礼心〕徳永同道、〔釋村子〕真十郎召連、下河原村開帳見物ニ出浮、  
観戯

の書入仕舞、今度遣ス

六日

未明夕打立帰府、五ツ過着、如並出勤仕候、講堂文会

二日

昼比打立、湯船江立廻り、新出来之堤見物、〔元大津手永惣庄屋〕山隈権兵衛

七日

参り合セ、七ツ半比迄當所江罷在り、暮比鶴村平山俊蔵

當番

江大伯母様御見舞、夜六ツ過旧村江着

八日

講釈當点、孟子ヲ説ク、仁心仁聞章下半〔離婁上〕

九日

並 ○三村傳之助、光永平九郎召連入門為致、塾中三四人年杯一同〔惣庄屋〕

十日

早出日會、片山宅詩會、鐵三郎発〔喜三郎〕 □日二度〔辨村子〕

十一日

不快引入 ○先月初立之御飛脚着、所々紙面来ル、上田忠左衛門〔羽倉氏〕・高橋弥平・廣田久右衛門・池邊〔吉十郎〕・田中權作〔門生〕・西島龜太郎・笠格兵衛〔番方丸〕・妹尾佐七左衛門等也 ○高橋分平山源作〔奉触知行取席〕一昨日押立申遣候儀御坐候ニ付、今日手元分も紙面仕出ス ○櫛原助之進〔門生〕・草野平蔵、居寮江引越

十二日

並出勤 ○平山方之儀、今日明日小代出府ニ相成候ニ付、塩山某分内話ニ相成候趣、筑山分噂ニ相成候段、高橋分〔源作〕為知ニ相成候事〔又兵衛〕

十三日

早出、申談、一応引取、夕番

十四日

御寺参拜、雨

十五日

在宿、塾生文會 ○夕方平山貞五郎来、今朝弥四郎紙面〔大組付持座〕着、直ニ打立候由之處、途中ニ而小代次郎助帰在ニ逢、横井丑右衛門分同人江嘶合之儀有之候段申聞候由、貞五郎ハ弥四郎手元分様子ヲ承り候上罷越、夜分咄合ニ而翌朝帰ル

十六日

於小島川口大炮試有之候 ○アメリカ書翰写水津(熊太郎)江返  
ス

並、夕方平山貞五郎至

十七日

片山宅文會(喜三郎)

並

廿日

十八日

並、御家老・御中老回り、江戸白金御婚礼被為濟候故也

並、當番月試坐督

廿一日

奉願口上之覚

廿二日

私共儀来ル廿二日・廿三日両日、泰樹院様御七回(故細川慶前)

朝六ツ時出宅、長上下也、御寺詣、四ツ半比引取、國友

御法事、乍恐御寺詣被 仰付之候様奉願候、此段宜

同伴

敷被成御達可被下候、以上

廿三日

三月

木下(隼村)

片山(喜三郎)

前夜四ツ過分支度、九ツ半比御寺詣、七ツ半分施食半濟、  
引續御執行、六ツ半引取

三(佐田真野小山)頭當り

十九日

廿四日

(嘉永七年)  
四月

朔

廿五日

塾生詩會

詩文會谷隱軒

廿六日

並

同二日

昨日長崎飛脚着、魯夷船四艘又々来ル由

廿七日

並、操出

同三日

並、専藏菊池江遣入、植梅十株

同四日

廿八日

並、長崎魯夷船、去ル廿九日長崎引退、浦賀江回り候様

並、専藏帰ル

○石光門生敬助来ル朔日江八代江罷越候二付、

子相聞

為暇乞罷越

同五日

廿九日

宅受持詩會、後夕片山宅集會

夕番、植梅六株

同六日

並、講堂文会如例

同七日

當番、浦賀阿米利加船、先月廿三日不殘引退、御受場御  
受取二相成候二付、廿五・六・七日、御役人之面々、江  
戸(カ)相州江被罷越、廿九日比長岡詮太郎殿被參、朔日以  
後御人数順々出張二相成候筈之由、江戸便り

同八日

並

同九日

並、德太郎(鎌村弟)出府、天火鉋持參

同十日

宅請持詩会

同十一日

並、有吉(家老)頼母殿御舍弟直熊殿招待被相成、入門被仕度段、

頼母殿江戸(カ)被申越候趣ニテ、直熊殿附役山下又之允罷  
越、及懸合候二付、追而是今及返答可申段申聞置候、右

ハ御引請入門と申儀、如何敷事柄先例も可有之と存、  
山(稱習助教)口翁江間合候處、已前(松井米田有吉)今三家衆ハ右之通、頼母殿

部屋住之時分、山口翁(九郎)・中村庄右衛門參候も右之通と申  
事二付、又之允懸合候趣致承知候段、罷越申向置候、尤

又之允ハ居合不申、口上書を遣置候事、尤急ナル儀之由  
二付、十三日夕方參可申段も申聞置候

同十二日

當春、友枝太郎左衛門、異國様之小舟、於高橋製造仕候、

此間一艘ハ出来、猶一艘此節出来候、今日船卸之由、一  
昨々日世話仕候竹崎律次郎申聞候二付、佐田真兵衛兄

弟・真野豊彦兄弟同道、夜明(奉行右平の嗣子)分爲見物罷越候、友枝船  
拵置、終日も可逐ニ逢候、船之儀、先頃出来之石ハツテ

ヒラ長五間半、黒色也、後出来之花号ハ緑黄色、下黒色  
五間也、笹号ハ同間ニテ、緑黒、下白色也、今朝潮早ク

落、八ツ後吹潮参候處ニテ、三艘共ニ盜嶋之南手江下ケ、夕方少々風有之、二三十丁乗出候而帆ヲ直し、三桅之製畧備り居候、見物船間遠、委細ハ見認不申候、夜ニ入帰ル、徳太郎（徳太郎）も竹崎小屋江罷越（江下）不同道

十三日

並、夕番、中村庄右衛門（郡代）江前稜（有吉）頼母殿江出候時之事問合ニ申候、嫡子と弟ハ差別可（有脱カ）之と之儀咄ニ相成、是迄氣付なしニ返答致候儀ニ相成、猶咄合申候、且（中村）已前庄右衛門列ハ内心引請入門と申儀、面白存不申候處分辞令ヲ付ケ、謙辞を以表向之入門と申ニ而ハ無之、羽織袴ニテ、頼母（有吉）殿も肩衣計ニテ有之候由、乍然此儀ハ庄右衛門其節存寄候筋ニ有之候得共、跡以相考候へハ、三家衆之儀（松井、赤田、有吉）、他所之貴人ニ無之を餘り稜付ケ過候、其後も稽古筋、思程ニ無之、後悔仕候ニ付、内輪直熊殿相續（有吉）ニも極り居候ハ、ニ罷越候而も可宜と乍脇見込申候段申聞候、山口翁（仁九郎）ニ尚又右之趣嘶合候處、内輪ハ相續ニ極り居候而も、表向無之候得ハ、何程ニ可有之哉と疑擬尤之説ニ

付、既ニ今夕之約束ニテ無レ間御坐候ニ付、土臺分申談直候儀出来兼ニ候間、入門之名義を相断、袴ニテ對面仕、依所望嘶ニ罷越候儀ニ候ハ、其通り、左無之候而ハ相断可申と彼方江相談可仕段、同意ニ罷成候ニ付、又之允江（山下）紙面を以申越参候ニ付、右之趣申聞候處、成程當代嫡子ニハ一例ニ参り兼可申候間、右之通ニ取計可申段申聞候間、夕方ニ約束仕置候

今日夕番後、雨烈敷降出候、如約束羽織袴ニテ頼母殿屋敷江罷越、直熊殿（有吉）十五才袴ニテ被致對談出手前分遣候様被申候得共、入門之名義ニ無之間、彼方分初ニ罷成候様仕、其後附役共取遣、膳を出候上、今日經書咄之序ニ説聞セ候之儀差付ニ難被頼段、附役分申候得共、少も不苦候と申候、論語一章首章嘶シ聞セ候、向フ座ニ机出候事有吉家会、約日、八日、十三日、二十四日、廿九日、何レも夕番下りヨリ也

十四日

今日

泰樹院様御七回御征月御忌日妙解院参拜 ○今日  
(細川慶前)  
〔鉄砲十挺頭〕  
宇野市郎右衛門、清成(大組付カ)武右衛門、岩崎雄熊兄弟御用為知、  
(岩男助之允)  
岩尾徳之助同様 ○道家角左衛門、去ル十一日白金御附  
役被 仰付候事

十五日

社中文會 ○御歛、御家老衆回り有之

十六日

並

十七日

宅文會、徳太郎菊池江行  
(鎌村弟)

十八日

講釈、孟子、早引、昼比夕菊池行、暮比着

十九日

暇日、在菊池、 太母十三年御忌取越、先妣三年御忌、  
一同佛事相営

廿日

暇日、在旧里

廿一日

早天、信十郎召連帰府、八ツ比着、出勤  
(鎌村子)

廿二日

並

廿三日

並、夕方御寺参拝

廿四日

並、夕方有吉殿会断申来



廿五日

文會延引 ○去ル六日

皇居炎上ニ付、日数三日鳴物停止

○道家角左衛門、

明日出立ニ付暇乞

廿六日

並、夕番

○狩野俊助来

廿七日

並

廿八日

夕方同僚集會、是日句讀齋中、

佐野亥一郎

・西村彦太郎

永鳥彦助・山田敬次等、御用有之、

山田八御足座席持懸

ニて御休メ也、所々同僚中參候ニ付、集會暮比散スル

廿九日

夕番後、有吉家会濟、

帰途永鳥ヲ尋

歡申、

宇野・井口

同飲

晦日

棋戦

吳淞半江樓詩文會、甚雨、

帰途大塚ヲ回り、

友成ヲ尋

朔日

五月

朔日

塾生之中、大學獨看、小学獨看之両科ヲ設ケ候事、但今

日ハ詩會之例也

○町野玄

肅江戸下り、着いたし候事、

但當人儀、柳原様之御息女佐渡殿媳ニ御入候、此節御下

りノ為、同道いたし着仕候、夜ニ入着いたし候也

二日

並、夕方石井茂助、

片山・佐野

同道ニて過訪、醉中

也、應其意、暮前分石井宅江罷越、

平川も同道也

三日

並 ○今日御飛脚立、羽倉外記様〔簡堂〕江書通、天野屋太郎左〔江戸前期の貿易商人〕  
衛門事、申遣候也、田代〔雄次郎〕江頼越候也

並、夕番後、有吉家会

並

九日

四日

並、佐野〔玄一郎〕ヲ尋、歛申

十日

〔星助〕井口・片山不快引入、講堂無人ニ付、詩會〔登三郎〕江不罷越、當番いたし候事

五日

佳節、塾生十三人召連、信十郎召連、河尻在〔辨村子〕江釣遊、高橋十之允・池部清之允〔門生仁賀太父〕ヲ尋、何レも邪魔ニ相成

十一日

講堂無人、操合ニ因而夕番、昨日中山逸堂〔宗松居士詩稿署名〕至

六日

並、徳太郎出府、新製之筒持参〔辨村弟〕

十二日

並

七日

夕方會後、大塚〔七右衛門〕ヲ尋ヌル

十三日

夕番後、有吉家会

八日

十四日

参拝出勤 ○此頃、道家角左衛門白金御附役、佐野亥一郎蒙養齋詰當分、大塚七右衛門句讀師當分被仰付候

道甫至、同藩櫛田俊平噂有之、古賀侗庵先生ニて逢候人也、道甫〔塚本〕嘶ニ、太宰府延寿王院主、古昔之典故ヲ取、正月廿一日内宴・上巳曲水宴・七夕宴・十月五日残菊宴、四宴と唱、文雅之士相集、其趣未識人ニも知らせくれ候様との事、後日入用之筋ニも可相成候間、記置候也

十五日

直熊〔有吉〕殿案内二付、井芹之別荘二石井藍濱同罷越

廿日

並、夕番

十六日

並、直熊〔有吉〕殿江札二罷越

廿一日

並、當番

十七日

文會加々山宅請持、夕方大城方〔天部右衛門〕江山内平治も見へ圍棋〔權内〕

廿二日

右同

十八日

加々山夕番之處、講釈當點二付、自身夕番

廿三日

並、築瀬〔鼠兵衛〕講釈也

十九日

並、夕方大塚七右衛門を尋、圍棋〔時前節句読師〕 ○筑前福岡書生塚本〔医〕

廿四日

並、當番、〔有吉〕直熊殿會

廿五日

郊外詩文會、所支二付、延引 ○宮川兄弟所分之儀二付、  
学校内集議之事二相成、旧冬度々打寄、議論不<sub>レ</sub>決候未、  
〔旗兵衛〕築瀬一卜通書綴有之候二付、自分存寄書、今日於講堂  
相認為見候事

但昨冬度々之寄合、自身一人衆說二違候故、〔酌〕斟觸之筋  
も有之候得共、一致不致上ハ仕方無之候、尤今日之存  
寄ハ先律面一卜通り之論ニテ差置候

註

宮川兄弟所分之儀：島善高「復仇与義殺」〔『東方研究集刊』  
第一輯、浙江工商大學出版社、二〇一七年八月〕を参照。

廿六日

並、夕番

廿七日

並、出 ○〔御前様附〕遠山三右衛門・〔懸高〕上村彦次郎・高橋弥平・上田  
忠左衛門・〔天組付〕鎌田軍之助・合志龜之助・宗幾久馬・同繁  
作・〔番方之〕妹尾佐七左衛門・坂本寿三郎等江状仕出

廿八日

並

廿九日

於清水寺詩文會 ○〔有吉〕直熊殿會 ○夜二入、〔目付〕松崎九郎平案  
内二付、〔文右衛門〕柏木・〔權内〕加々山・〔豆助〕井口同様罷越、尤遅参いたし候  
事、是年小盡

〔嘉永七年〕  
六月

朔

在宿

二日

並

御奉公覚

私儀、時習館訓導被 仰付置、去丑六月朔日夕當寅

五月廿九日迄、當前之御奉公相勤候内、病中二而日

数五日懈怠仕候

一、當年五十歳ニ罷成申候

右之通御坐候、以上

嘉永七年六月

木下真太郎 印判

(佐田、真野、小山)  
三二頭當り

三日

講釈操出、点前早出 ○福島龜之允本役被仰付二付、旅

宿江参り、河瀬・渡下等打寄居候 ○是日德太郎出府

(辨村弟)

四日

並

其元儀

(細川義久) 澄之助様・(細川義明) 寛五郎様御会讀等申上候様被 仰付候間、

明後六日四時分麻上下着、二丸御屋敷江可被罷出候、以

上

六月四日

御用人中

木下真太郎殿

尚々、御稽古御定日且御操替等之儀ハ、御附役夕直二申

達二而可有之候、尤加賀山権内江(時習館訓導)も同様被 仰付置候間、

可被申談候、以上

右之通申来候間、御請仕候上、学校江権内出居候故罷出、

承り合セ、御用人月番元田三左衛門方江御請ニ罷越、

(山口、柏木) 両教江為知候事

五日

詩文会片山受持、例之通 ○德太郎疾二付、旅宿ニテ

(室三郎)

(辨村弟)

薬用仕居候

六日

四ツ時分、二丸御屋敷江麻上下着罷出

(登之助 五郎)  
兩公子御目通被 仰付、一旦引取、肩衣取罷出、

直二御會、孟子首章被為濟候

但毎月六日・十六日・廿六日を以孟子御會御定二相成、廿三日八ツ過夕御詩会罷出候様、御附堀内久左衛門江申達

右御會畢而御酒御支度頂戴、引取、学校江出、右御定日之儀も教局江も申達候

七日

當番、於宅早田門生 佐賀藩上栄橘離杯、塾生中不殘座敷江打出、夜分釋村弟徳太郎を尋 ○信州産之書生佐治、當時高橋何某来ル

八日

講釈、當點、説孟子 ○夕方、有吉家会讀

九日

並、出

十日

詩会善三郎片山受持、不罷越、講堂江相詰 ○同役中、去冬已来疑擬之一件、草案相認 ○徳太郎釋村弟、去ル四日比夕時疫二而旅宿二打臥候二付、時々相見舞、今日、寺倉周禎参り合七、容躰等承之

十一日

早田門生 佐賀藩上栄橘大婦、作送早田生序文釋村遺稿拾遺下巻 退藏送之、杉森門生・後藤門生帰省

十二日

並

十三日

夕番引、直二有吉家会相仕舞、徳太郎釋村弟を尋、昨日少々汗出候而、氣分直り懸候方

十四日

御寺参拜 ○祇園祭例暇

十五日

在宿、町野を尋〔安藤〕 ○小太郎出府、為徳太郎見舞〔釋村弟〕

廿日

並

十六日

二丸出勤〔長則〕 ○監物殿父子三人下着、為欲罷越〔徳太郎兼之〕 ○徳太郎を尋、氣分打續宜敷有之方、今朝初太郎手紙遣候、返事とも相認〔釋村弟〕 ○今日小太郎帰ル

廿一日

並、此間病人不相替、熱も強り、下利も始終止ミ不申、町野も時々診察仕、秋堤立會之事も申談候得共、流儀違二て其儀調兼候

十七日

講堂〔喜三郎〕 片山宅文会罷越

廿二日

並

十八日

並之通〔釋村弟〕 ○徳太郎呼二遣候間罷越候處、塩梅悪敷、竹崎〔木下初太郎弟律次郎〕 も此内〔徳太郎兼之〕 看病仕居候

廿三日

講釈点當、八ツ後、二丸御詩会出

十九日

並、病人不相替

廿四日

並、丑三郎出府、常〔釋村弟〕 太郎ハ此間〔釋村弟〕 看病致し居候

廿五日

〔妙解寺末寺〕靈樹庵詩文会、此頃日夜透次第、〔釋村弟〕德太郎旅宿江罷在

〔嘉永七年〕七月

朔日

〔釋村弟〕小太郎出府、今日八、病人穩二有之、〔德太郎養父〕木下初太郎出府

廿六日

並之通、二丸出勤

二日

〔長門〕監物殿江暑見舞二逢而、江戸表之噺共有之

廿七日

同

三日

並之通、〔德太郎〕病人大分宜敷、食氣弥以益候方

廿八日

同、此時分〔德太郎〕病人少々解熱之方二越 ○食味少々付候方

四日

並之通、〔德太郎〕病人同変

廿九日

同 ○昨日〔有吉〕頼母殿下着、為歡罷越、今日〔有吉〕直熊殿会讀罷越

五日

宅詩会請持後、京町江參

不申候

晦日

〔釋村弟〕昨日丑三郎帰ル、終夜夜伽、夜中寒熱往來仕候

六日

二丸御會御延引之段申來候二付、如並講堂文会出、此夜



京町滞

七日

佳節二付、病人(徳太郎)江相詰

八日

二丸御會申来、相濟候上、夕番、尚其後有吉家定日會

九日

並之通、病人(徳太郎)次第第二快相成

十日

宅詩會請持後、京町江立越、此頃より宅會讀大形相止候

十一日

並、暑近日殊甚、木下初太郎(徳太郎義父)婦在

十二日

並、病弟(徳太郎)今朝中暑等致、少々氣分勝不申候二付、此夜駕二乗七、私宅之様引移、走番一人・定夫壺人付參候

十三日

夕番、有吉家会断 ○未明打立柿原(元師大城準太郎)鳥尾山墓參

十四日

早朝立田山墓所見繕、泰勝寺參拜、上河原墓參

十五日

妙解寺參拜、病人(徳太郎)爪ヲ剪、髮ヲ櫛ル

十六日

二丸出勤

十七日

宅文会

十八日

並、此夜病人帰在之用意、夫方四人南関分參ル

右ハ一應御出来ニ相成候ハ、釣瓶等一切仕継之儀

ハ、自勘ニテ相弁申度段、初發相達候處、後來之規

矩ニモ相成候ニ付、已前之御見合通ニ相達候様、教

授局分噂ニ付、本文之通相達候、尤相達日事幾日と

申儀、扣落し候

十九日

前夜半比、病人駕ニテ帰在

廿日

並、築瀬・井口（皇助）江一議事之答、書附相認遣ス

廿二日

當番

廿一日

並、並、石光（門生）敬助至

廿三日

赴堂後、二丸御詩会、日暮引取

當番

官塾添之井戸、竽・釣瓶之儘御取入ニ相成居、多人

廿四日

夕番後、有吉家会讀

數相用候ニ、寒中抔難決仕候上、井桁崩、迷惑仕候

ニ付、已前（英助）近藤先生御宅ニ御坐候節之御見合を以、

廿五日

郊外詩文會、沙鳥高見家別荘集泛舟湖上、夜帰

敷被成御達可被下候、以上

七月

姓名

廿六日

此際暑甚、二丸御會出

朔日

在家

廿七日

並、〔高田手永惣庄屋〕光永四兵衛出府致候二付、〔門生〕石光敬助事二付、旅宿迄

二日

罷越

並 ○御用有之候間、明後四日四時分、御花畑〔江〕罷出候様、御達ニ相成候、右ニ付、御請且知らせ方等例之通

廿八日

並、講釈當点、〔高田手永惣庄屋〕夜光永四兵衛至

三日

並、早引、明日之用意等いたす

廿九日

夕番、有吉家會

四日

御殿出 ○其元儀、数年出精相勤候二付、御紋附御上下一具被下置旨被 仰出之段、〔大木〕舍人殿申渡、廻り方平服、

卅日

並

其外並之通  
〔辨村弟〕小太郎・〔辨村子〕信十郎菊池令来ル

五日

出勤不仕、〔権内〕加々山宅詩会出、〔顯氏衛〕夕方築瀬・〔呈助〕井口・〔又右衛門〕佐村・

〔嘉永七年〕閏七月

飯田来ル、其外国友〔半右衛門〕も同様、此日塾生中飲酒

十一日  
並、回り方いたす

六日

二丸御會後、講堂出 ○今日御作事、御掃除より御役人

十二日

為井戸見分罷越、留守る応對、夜分瀬上〔根取〕甚兵衛宅江罷越、

並、同様

井戸之事、猶及咄合候

十三日

並、夕番後、有吉家会

七日

並、少々廻り方之内、雨強降

十四日

並、廻り方

八日

夕番後、有吉家会讀、雨

十五日

並、右同 ○武州河越保岡源吉〔嶺南〕伴保岡正太郎、去ル四日

並、雨

此許〔辨村弟〕江着仕候而、翌五日小太郎同道、菊池之様罷越、一

昨十三日帰宅、今日出立、柳川之様罷越候

十日

加々山詩受持、講堂〔権内〕分罷越、其邊少々打廻り、雨晴

十六日

二丸出 〔息軒〕 安井仲平より状至、羽倉外記殿畫灰・畫水二書、上田忠左衛門々見せニ相成候 〔簡堂〕 ○今日、安井・塩谷、〔若陰〕 於御屋敷ハ溝口殿・澤村宮門・大概彈藏方上村彦次郎〔職人〕・遠山三右衛門・田代雄次郎等、浦賀ニハ弥平并〔御前御遊〕・笠格兵衛〔相御備場大御守〕江答書旁為知状進之

十七日

文會〔權内〕加々山宅 ○唐山戦争之様子、来舶商之風分書并蘭使節船之風説書、イキリ使節を指立候儀決定仕居候由、此間々承ル

十八日

並、イキリス使節船大小四艘、長崎江着いたし、内密之情不慥ニ候へども、先左之通  
ヲロシヤヨリトルコニ理不盡之儀有之二付、ブリタニヤノ女王怒テ援兵ヲトルコニサシムケ、其餘一味ノフラン  
ス、外ニ二國同様ニて、及戦争可申、就而東海ニヲロシ

ヤノ船有之カ、又ハ夫ニ奪取シ候舟有之ハ、可相妨タメ

致渡来、外々國々も追々ニ船差越可申候間、湊々無差支様奉願との趣、右ハ口上書ノ様ノモノ直ニ難訳、加比丹ヨリ譯し差出候由、其外ニ板行物一枚ニ天下ノ國萬國ニ關係ナキハ女王其儘ニ難差置、一國ヲ瑣〔通〕シタルヲ責從へ可申事ナレトモ、此事甚難し、海湊堵湊ニ城砦ヲ築タルヲ責ルニ彷彿タリと申文意也

十九日

講堂詩会如例、並

廿日

並

廿一日

並、井呈〔井口呈助〕招同僚、賞萩花

廿二日

並、並

喜次、井口(皇助)同役同席也、夜雨、五ツ過帰ル

廿三日

廿八日

並、出勤後、二九御詩会

暇日、菊池(江)墓参、夕方着、雨

廿四日

廿九日

夕番より有吉家会 ○當月初、於浦賀笠(相州御備場大筒手)格兵衛、御陣場より浦賀(格之助)遊山ニ罷越、帰候途中、同道筒井何某ヲ討果、一旦御營中(江)引取、其夜中ニ致逐電候由相傳

桑満(伯頼)先生見舞、城野叔母様同様、夕方引取、雨

廿五日

朔日

長國寺詩文會

雨、昼比夕打立帰府、入夜着

廿六日

二日

二九御會讀

腰痛ニ付不快、引入 ○御掃除方夕塾井戸巻立

廿七日

三日

並、是法村有吉隱宅(江)罷越、小嶋・大浦二隱居、辛嶋多(穿鑿役免)

出勤、教授局支ニ付、臨時講釈相勤 ○佐田方、豊後國

志讀合濟、持參返ス

四日

當番

○德永礼八至、夜、

福島龜之丞至

五日

詩会、片山請持

六日

御連枝様御狺御出ニ付、御會止 ○大槻助之允、

蒲池太郎八歛罷越 ○夜分ニ懸、富永喜左衛門・

平山源作懸合之儀ニ付来談

七日

朝喜左衛門又至 ○今日昼詰之處、取違、夕番ニ罷出

△昨六日講堂江出候處、同役集談有之、宮川一件ニ付、

居寮生江も御問出候事ニ付、彼是申談、七日、自分一

人柏木宅江罷越、追々合兼候論説相述候様、尤外ニ

同意之面々ハ六日同所江罷越候筈、因而今七日罷越、

井口も来会ニ付、同座ニ而、愚存之趣申述候

右愚存之儀ハ、安東熊彦ハ人ヲ殺而義ナルものニ相違

無之、本文之經注、漢唐以來、諸儒所説分明ニ、復仇

之外、無餘儀事を義殺と致候儀ニ付、復仇ニ入ル歟、

若未死訖候へハ義殺ニ墮候而も丈夫成義殺と申主意也、

委敷事ハ別録ニあり

夫ニ律面之論有之、一ツも聞候事ハ無之様ニ被存、義

殺ニ親之疵之深淺、律ニ無之儀、不審杯ハ律意を存タ

ルもの、言ニ非ス

今日、夕番ニ出候處、筑山又兵衛〔源作〕平山懸合、世話被頼

候ニ付、相断申候

八日

夕番後、有吉家会讀

九日

並、丑三郎寸志之訳ニ被對、一領一疋ニ被仰付候

〔釋村弟〕

十日

並、丑三郎引取〔輝村弟〕 ○夕方井口勝藏〔喜左衛門〕ニ罷越、富永咄合之儀、

申向置候

十一日

並

十二日

並

十三日

夕番出方之處、此間宮川一件討論之書中、築瀬〔患兵衛〕不氣受之儀有之候と申儀、片山〔喜三郎〕今噂有之候ニ付、前度出置候質問書引取、夜分築瀬〔患兵衛〕江罷越、文会之末、程能啣合候、就而ハ此一件、講堂ニてケ様ニ論説仕候訳ニ有之間敷段、咄合候

十四日

夕番より妙解寺参拜

十五日

在宿、家内とも夕随兵見物ニ罷越

十六日

二丸御會出、引續、有吉家会讀江罷越、暮比引取 ○今日小代次郎助出府、富永喜左衛門〔天保十二年、奉行態〕と出會仕候由、夜分小代参候而咄合之模様承ル ○城野弥〔輝村從弟〕三次出府、阿下大順養子〔菊池の医者〕度ニ付相談、阿下違令致かぬ云々ニ付而之事也

十七日

○片山宅文会 ○平山貞五郎参り、今朝杉村三郎、小代出府所江罷越、才八養子一件之儀、是非血統ハ相立申ニ付、其段隠居江申向呉様申候而、小代〔次郎助〕今ハ相断、物別れニ相成居候由



十八日

講釈、當点 〔學校目付〕 ○筑山又兵衛方より之呼立、〔三郎〕 杉村・〔貞五郎〕 平山一件とても血統之儀ハ相立可申筈にて、彼方より之申談、〔次郎助〕 是儀迄も小代受不申上候、今一応懸合も可致、つまり上達之心組之由、此間此方より相断り致候へとも、一旦咄向置候末二付、噂仕候段申聞二相成候二付而、入念候儀と迄返答仕候事

十九日

講堂詩会、並之通

二十日

夕番、〔奉行〕 佐田吉左衛門殿死去被致候

二十一日

當番

二十二日

當番

二十三日

並、早引、二丸御詩会

二十四日

夕番、有吉殿会断、本妙寺塔中蓮光院葬、〔吉左衛門〕 佐田氏會葬

二十五日

例詩文会松鼻大木殿別荘、〔顯兵衛〕 尤築瀬引入二付、無人之間、手前當番ニ罷出候内、築瀬隱居死去告来候二付、政府教授局手数仕、其後詩文会〔江赴久〕、相濟候而皆一同築瀬〔顯兵衛〕 吊儀  
〔釋村弟〕 小太郎・木下初太郎同道、崎陽〔江遊〕

二十六日

二丸出勤分〔奉行副役〕 辛川孫之丞副役〔築業吟味役〕 歎、〔医師〕 黄玄朴〔江阿〕 大順養子頼之申込、夫〔中小姓〕 名和桂之助〔江罷越〕、桂之助儀於江戸木挽了

御屋敷、六月六日之夜熟睡致居候處、蚊屋越ニ喉を突候

九月(嘉永七年)

と覺、其儘立去候者有之、疵ハ二三針縫候程ニ有之候由、

朔日

依而老病ニ罷成候趣申立、願下仕、先日廿着仕候ニ付、

(辨付)信十郎并塾生相連、木ばる野江茸取

為見舞罷越、疵ハ至而輕キ事ニ有之たると相見へ候

○小野右膳隱居家督歎 ○是法之様立廻り、(有志)市郎兵衛殿

二日

江先日之禮旁罷出、尤留守ニ有之候事

風邪、引入、大工萬九郎、部屋ニ階手入

二十七日

三日

並

風邪、引入 ○石光敬助、八代夕引取様子有之、

二十八日

(高田平水惣庄屋)光永四兵衛至

並

四日

二十九日

夕番、有吉家会より飯田熊之助(番方)江案内江罷越

右同、来ル六日御飛脚立ニ付、(弥平)高橋・右田・上村・田代  
其外、浦賀詰之面々江(息軒)數十通返書等仕出、尤安井仲平・  
(右陸)塩谷甲蔵江一封仕出、(彦次郎)上村江頼遣候事

一、英夷使節船、先月十三日・十七日兩日御応接相濟、

廿九日退帆仕候由、御応對之大意ハ別ニ録し置也

並

晦

五日

右同、尤詩会ハ宿元江引請相勤候事ニ付、此一日引入ニハ不加也

十一日

右同、国友半右衛門、句讀齋世話役被 仰付候由

十二日

六日  
右同

右同 ○此節風邪格別之熱ハ無之候得共、度々引返候氣味ニ有之、隙取候事、尤今日月代ハいたし候事

七日

一、江戸詰下村九十郎江注文申込置候羽織袴裏、今日着、代金合百目七分、近々為替仕上可申筈

右同

一、去ル七月二日、御陣場今浦賀之途中ニ而、詰衆之

八日

内筒格之助井何某致横死居、身首異処有之、根元相州御備場必按掛笠格兵衛・中西多一郎同道ニて罷出候由、兩人

右同

追々二帰營之上、夜中格兵衛逐電致、御尋ニ相成居

九日

候處、先月八日、白金詰上藤原、中村加善美の兄村彦次郎御小屋江夜分上村罷越、彦次郎致応對、其儘御屋敷を立退、翌日彦次郎縁家若殿次番内柴重三郎同道仕、格兵衛有付先キ淀澤土桶業正形

右同

稲葉長門守様御屋敷江尋參候處、其少已前、同心今

十日

差押候趣承之、引取候而、其趣相達候由

右同、尤詩会宅引請、五日同前也

一、小堀次郎助、落馬怪我、小便閉危篤之由承之、尤

〔医師〕  
奥山静叔療治ニ、去ル七日今八代江罷越候由

十三日

風邪引入

十四日

出勤、夕番今 ○荻角兵衛御用、組脇帰役 ○横井平四郎、左平太跡目相續

十五日

休日 ○阿蘭陀本國船當月三日退帆候之由 ○小太郎〔雜材也〕  
去ル十一日長崎夕帰候由 ○松岡八左衛門於江戸御物頭列被仰付、為祝留守案内有之

○下村九十郎〔江注〕文頼遣置候品々、仕下し候而、左之通

一、五拾七匁

御納戸袖袷羽織地一反三所紋

染代共

一、拾四匁壹分

もへき海氣八尺四寸 カタイ

レ

一、式拾七匁壹分 紺玉海氣一丈五尺五寸 袴ウ

ラ

一、式匁

羽織紐一ツ

メ百目式分

此金壹両三分之内、四匁八分抜ケ

右之通ニ而金一両三分、御勘定江為替頼、小野江直ニ

相頼候事

十六日

二丸出

十七日

宅請持文会、片山喜三郎〔時習節訓尊〕、此比江戸白金詰被仰付、追録、

日取不詳

此間記録欠、廿八日江島氏別荘にて片山リハイ

〔嘉永七年〕  
十月

朔日

学校一統申談、西山江兎狩、惣勢五百餘人、自分手七十人、  
八番二相當、暁八ツ時分学校江揃、七ツより押出、野井  
手山江罷越、暮六ツ時帰宅、矢開、惣手二兎十六、自分  
手二式ツ

三日

講堂、御言賞有之

五日

〔時習館訓導〕  
片山喜三郎出立

六日

二丸出 此邊、記欠

十五日

大たを山江塾生連レ兎狩ニ罷越

十六日

二丸出

十七日

〔権色〕  
加々山宅受持文會、後有吉隱居是法宅江罷越  
〔市郎兵衛〕

十八日

講釈、當点、古庄、佐伯案内相客、機密間一手町野等也  
〔玄肅〕

十九日

詩会如例

廿日

播州儒学河野俊藏、深水宗信方江罷越居候二付、町の同  
〔鉄兜〕 〔春山長子〕 〔玄肅〕

道相尋

廿一日

廿二日

宮川一件見込書、〔巖兵衛〕篠瀬江遣ス

廿三日

来ル廿五日詩文会所借方片付不申、釣耕園ヲ借受候事二  
丸御詩会御延引

廿四日

廿五日

釣耕園詩文會

廿六日

二丸御會、出勤後、菊池江罷越、六ツ前着

○廿七日

子供等兔狩仕候二付、木庭山迄罷出、無獲

○廿八日

〔伯題〕桑満・〔天題〕阿部・〔孫三次〕城野迄打廻り、後茶白山ニ而永田長左衛門  
催飲、筑紫春登捕兔屠之

○廿九日

帰府、〔禪付七〕信十郎・〔禪村老〕徳太郎同道、晩方着、三日之暇日なり

晦日

出勤

〔嘉永七年〕  
十一月

朔日

〔天組付之〕佐田新兵衛跡目歿、〔慶応二年、時曾簡句読師〕林市之助・永井新八浦賀帰り歿、  
打廻る

同二日

出勤

同三日

講釈、當点

十一月七日

朝五ツ比又々地震、一昨日二不及、其後少宛震氣有之

同四日

夜加々山同様宇野武一郎應招、平野新九郎・荒井道之

同八日

夕番、有吉直熊〔頼母也〕殿会讀断申来、震氣無之

助同座

同五日

詩會宅請持 ○七ツ時分大地震、五十脉計之間、次第二

振ヒ、皆々屋外ニ出申候、御城内御別条無之、町家所々

倒家有之、晩暮ニ懸少々宛五六度、夜分も震動いたし、

何しも格別之儀無之候 ○塾生森小文次・水野儀一郎・

首藤乙熊取遣、小飲

同六日

二丸出勤、御屋敷内壁、兩戸等損所有之、今日も少々宛

度々震動、夜分同役加々山〔雜門〕江打寄、例集會也

同九日

奥山静叔来、國友半右衛門事内話、出勤之上同役中咄合〔医者〕  
〔句談世話役〕

同十日

詩會宅請持、稻津方〔角之允〕申来居候謙信畫像賛ヲ書ス

此節之地震、熊本内町家、間々倒家有之、御家中も損所

追々ニ有之候由、河尻之儀、岡町筋七十戸計倒、壓死も

有之、夫分南ハ承不申、雲仙已前之崩処ニ候歟、又々崩

候而、高梁邊潮五尺計増候由、阿蘇大津方角ハ四日五ツ

過震動も有之、鶴崎ハ五日同刻強ク有之、倒家火事等起

候内、七日五ツ過二大ニ震、以御茶屋・御郡代詰所各傾

倒、河北助三郎脇差計ニて身を拔免、御番代も同様、  
〔河野多哲吉、野津原、龜崎郡代〕

其外町家八分通倒家之由、菊池・山鹿・南関方角ハ輕ク

十六日

有之、其外ハ未夕承及不申候

二丸出勤之上、猶講堂江出ル

一、隈部〔禊村妹夫〕徳七、一昨八日、本席ニ被仰付候

北隣石本和次郎出府所、松原傳〔穿鑿後〕右衛門稽古場ニ相成、屋  
番善右衛門母みな行向キ無之、手前江暫差置、善右衛門

十一日

八山田方江寄身居候由

並

十七日

十二日

宅文會請持

並

十八日

十三日

並、入寒

夕番、有吉家會、此二三日寒氣殊ニ甚シ

十九日

十四日

詩會、並

小者痛候而、御寺參拜出来不申候

廿日

十五日

並、夕番

江戸下り之面々、岩佐〔後助〕・林等歛申、上村彦次郎〔願流、中村加藤妻の兄〕を尋候



廿一日

當番

廿七日

並、井口呈助〔時習館調導〕隱居井口壽亭病歿〔益方〕

廿二日

右同

廿八日、並

廿九日

廿三日

〔細川慶久〕澄之助様御風邪二付、御詩会御延引、講堂出

夕番 ○有吉家会、九月中、安井仲平等〔息軒〕紙状仕出、

〔彦次郎〕上村江頼越候處、上村下二付、返り来候間、猶田代雄〔若殿近習〕

次郎〔江〕去ル廿五日御飛脚二仕出し候

廿四日

夕番、有吉家会支二付、断申来候

一、此節之地震、大坂・四國強、東海道宿駅大半潰れ、

所々火事も有之、舞坂・興津等ハ津浪も打候由、伊

豆之下田海波溢れ、御役所向ヲ初、餘計之人流失、

廿五日

詩文会法念寺、尤住持替り二付、此方今前以懸合、初而

異船人も四五人ハ溺候由之評判 ○日光山大雪、大

雷、久能山御廟ヲ除焼失 ○片山喜三郎、今月七〔時習館調導〕

借候

日江戸着、地震ニハ箱根ニて逢候由

廿六日

二丸御方々様御風邪二付、御会讀御延引、講堂出

〔嘉永七年〕十二月

朔

柏木・〔文右衛門〕黄玄朴〔医業吟味後〕其外、山崎方打廻り、寒見舞、〔玄朴〕黄江〔医脚〕ハ阿〔玄謙〕大順養子之事ニ付咄合、町野〔玄謙〕ニも咄合

二日

並、〔利根肥後新田藩主〕細川能登守様御家中〔安忠〕安藤熊彦と申者、去年十二月宮川辰之允弟ニ而致家出居候宮川五郎を討果候末、辰之允弟宮川勝左衛門・同権次郎、熊彦を為可討果、其宅〔江押〕懸候、處分之儀ニ付、訓導中論説異同有之趣、御奉行〔文右衛門〕柏木〔文右衛門〕内話有之候由ニ而、右異同之趣、且両助教見込をも為可被承、御奉行中見込書付一冊并袖扣一通被相渡候由ニ而、教授局〔江〕通達ニ相成候

三日

並

四日

飯田熊之助、〔訓導〕同役當分被仰付候

五日

講堂無人ニ付、詩会ニ不罷越、講堂詰

六日

二丸御会讀過、尚講堂〔江〕出、飯田〔熊之助〕江〔江〕欽ニ參ル、此比寒氣甚し

七日

並

八日

夜分七ツ〔星助〕井口宅〔江〕打寄、内議之一件申談、予論衆説と合一不致候

九日

當番、早出、蒙養齋会

十日

當番

道具類損し、其末紛失候ものも有之哉之聞取二候へとも、其儀ハ不相糺、差出ハ其身ニ為持遣候處、届ケ不申由ニ付、今日尚又暇差出、人足所<sup>江</sup>相達

十一日

將軍家御代かわりニ付、御法令書拜見、御家中御殿<sup>江</sup>惣出仕、五ツ半時揃、御備頭<sup>江</sup>組不入御中小姓迄、三限ニ濟、今日学校休ミ

十四日

十五日

十二日

<sup>〔細川鷹麩〕</sup>若殿様御生母みゑ十一月某日致病死、来正月十二日迄<sup>〔細川鷹麩〕</sup>若殿様御定式之服忌被為受候ニ付、其段一統相心得候様、右ニ付而御家中祝筵<sup>江</sup>等不仕立之事ニ候

在宿、塾中大掃除、近日天氣暖 ○吉村<sup>〔中小姓二番組〕</sup>喜兵衛<sup>江</sup>嫡子

庄太郎<sup>江</sup>山羽次<sup>〔番方六番組〕</sup>左衛門育之叔父山羽五助娘縁組願書代金、

神足<sup>〔中小姓二番組〕</sup>浅右衛門方<sup>江</sup>持參仕置候儀、昨日也

十六日

講堂拜借書籍等取揃、付替相濟 ○荒尾手永彦藏召抱、自分抱也

十三日

夕番、宮川一件ニ付、私考二冊同役<sup>江</sup>遣し、築瀬<sup>江</sup>令教授局<sup>江</sup>出候事

十七日

去ル十二日、増奉公廻江手永志々水村専藏申付、不相用候儀追候ニ付暇差出、尤内輪ハ髮結所<sup>江</sup>無人折柄入候而、

年末しらへニ取かゝり

十八日

二丸〔澄之助・寛五郎〕公子御詩會、加々山〔権内〕一同罷出候様申来、九

ッ比〔澄之助・寛五郎〕分參上、七ッ比過迄ニ御会濟後御支度御酒被下、暮  
比引取

一、宮川一件ニ付、御奉行中〔又右衛門〕分猶催促御坐候由と柏木〔又右衛門〕分

噂ニ相成、今夜手前一人呼ニ成候ニ付、初夜分參る、

手前之説都而察討有之、一々愚見申述、此儀諸氏之

説一向貫融不致様ニ有之、柏木〔又右衛門〕も同様之意ニ相見へ

候得共、其意相分り不申候、とても合一之議ニハ至

り申間敷見込申候

十九日

今日同役〔旗兵衛〕・加々山〔権内〕・飯田〔熊之助〕、井口宅〔星助〕江打寄、尤柏木〔又右衛門〕も

一同ニて、一件之討論有之筈、手前ハ一人別説ニ付、不

參候

廿日

昨夜ハッ比退散ニ相成候由 ○年末調例年之通ニハ被行

兼候ニ付、薦達迄、今日相調

廿一日

今日も同役〔又右衛門〕柏木宅江打寄有之由、手前ハ説違ニ付、參

り不申候 ○在宿中草稿等相調、作對岳楼記

廿二日

吉村庄太郎縁組願書、付紙ニ相成、神足〔中小姓二番組〕浅右衛門分通

達至

廿三日

在宿、尤竹部方寒見舞返禮

廿四日

總出、諸達物取調、夫々相濟候、尤當年差懸り之手数迄

ニて、別達并諸生級等調之儀ハ来春江延申候 ○佐村〔又右衛門〕・

三苦同道、井口見舞〔又左衛門〕

一、先日差出置候見込書草稿、清書致候様、柏木〔又右衛門〕分渡ニ

相成

廿五日

在宿、書附取調 ○朝之内、〔中山手永徳庄歴〕矢嶋忠左衛門を尋る、當人病氣滯府也

廿六日

右同、昨日二丸御屋敷ニ於而〔澄之助、寛五郎〕一公子〔澄之助、寛五郎〕今白銀壺一枚被下候

廿七日

右同、夜池〔百石兼作〕邊軍次列至ル

廿八日

右同、一件見込書清書、〔文右衛門〕柏木方江持參

廿九日

右同

卅日

仕舞、塾中越年生杉森退藏・首藤乙熊・〔柳川〕中村四郎・〔松野龜右衛門家來〕赤星元齋・中西卓次〔御郡医師文哉粹〕〔天草〕